

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報
No. 48 2010. 05. 20.
発行責任者 坂東 貞男
編集責任者 教 宣 部

シリーズ『リニア中央新幹線ってどうなの？』①

リニア(東京－大阪間)自己負担約9兆300億円！！

先頃発表された勤労情報No3(2009年度決算と交通政策審議会で説明する試算結果等について)によれば、①JR東海が中央新幹線の東京－大阪間の建設を自己負担で可能であること、②開業時期について、東京－名古屋間が2027年、大阪までが2045年になるとの試算結果を発表しました。

JR東海の試算では、リニア中央新幹線(東京－大阪間)の建設費として約9兆300億円となっており、これをJR東海は自己負担で建設しようとして計画を進めているということです。

リニア中央新幹線を公共事業でなく一企業の単独事業として建設しようとしているのですが、これまで新幹線を始め、多くの大型プロジェクト(本四架橋神戸－鳴戸約4.7倍、東京アクアライン約3倍)がそうであったように計画時の建設費の試算より大幅に膨れ上がることが予想されます。

早くも計画修正、本当に自己負担で建設できるのか！？

これまでのリニア中央新幹線計画では、東京－名古屋間の開業時期が2025年でした。しかし、景気低迷や高速道路料金の割引制度などから2009年度の東海道新幹線の収入が前年比約8%減になり、会社発足以来最大の落ち込みになったことなどから開業時期が上記のように2027年に修正されました。このように早くも修正しなければならないのが現在のJR東海を取り巻く状況です。

JR東海は、新幹線買い取り等の長期債務約5兆円を全社員の日々の努力で減らしてきましたが、現在でも3兆円あまりの借金を抱えています。リニア中央新幹線建設の会社試算では長期債務残高がピーク時でも過去の経験値の範囲を超えず(5兆円以内)としていますが、今後金利が上がることも考えられますので本当に大丈夫なのでしょうか！？

私たち社員にとって、会社の経営状況は労働条件等で直接的に身に降りかかることです。だからこそ絶対に第2の国鉄・JALにならないよう職場から声を上げていきましょう！！